

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800071		
法人名	有限会社 スマイルケア		
事業所名	グループホーム 千手		
所在地	〒813-0043 福岡県福岡市東区名島1丁目6番13号		092-663-9111
自己評価作成日	平成 24年01月30日	評価結果確定日	平成24年03月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム千手が開設して3年が経ちます。「その人らしさ」を重視してケアに取り組み、ご本人やご家族との密な関係作りを基に日常の支援を始め、重度化や終末期について、ご本人、家族の意向を重視し、医師や看護師等の協体制の基、尊厳と安らかな死が迎えられるように努め、看取りも行ってきました。それに伴い職員のスキルアップが必要不可欠となり、今後も外部・内部研修の充実を図り職員のスキルアップや育成に力を入れて行きたい。又、今後も地域活動への参加や、地域の方への介護相談や情報の発信等により、地域への貢献にも力を入れて行きたいと考えています。介護ボランティアや踊り等のボランティアの方々にも訪問していただき、楽しめる支援にも取り組んできました。今後も地域資源等の活用により豊かで楽しめる活動も取り入れて行きたいと思ひ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム 千手は、名島城跡近くの閑静な住宅街に位置し、小高い丘のリビングからの眺望は四季の移り変わりを、利用者が五感で感じ、日々の暮らしにメリハリをつけて、生き生きとした暮らしぶりである。「地域の中で、その人らしさを大切に、穏やかに暮らせる支援をしていく」という理念を掲げ、管理者と職員は家族のように、「心配したり、心配されたり」の関係で家族の信頼も生まれてきている。町内会に加入し、回覧版が回り清掃活動、子供神輿や介護相談等、開設3年ではあるが、地域に根ざした交流が始まっている。また、協力医療機関による定期的な往診と、24時間対応出来る医療連携体制は、利用者や家族の安心に繋がっており、「ここを選んで良かった」という思いに結びつき、利用者の心身機能維持を目指し、今後の活躍が期待されるグループホーム 千手である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		093-582-0294
訪問調査日	平成 24年03月02日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り、ミーティング時に運営理念の唱和を行い、全職員に意識付けしている。又、生活歴等を把握し、日々の暮らしの中でも「その人らしさ」を大切に出来る様、情報の共有をし個別ケアへ反映出来るよう努めている。	季節毎の行事を大切に、地域との交流の中で、その人らしく、安心して穏やかに過ごせるよう支援することを理念に掲げ、毎日唱和し、常に理念を意識しながら、職員が利用者一人ひとりの暮らしに寄り添うケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・お知らせなどは回覧板にて案内があり、地域の清掃活動や行事(子ども神輿)等に参加させて頂いている。近隣の方が介護相談に来られることが多く、相談関係機関につなげている。今後も地域活動に積極的に参加して交流を深めていきたい。	回覧板が回るようになり、地域の情報が得易くなった。地域の清掃活動への参加や子ども神輿の来訪、近所の方から「お風呂に入れて」とダイダイの皮の差し入れがあったり、開設4年目ではあるが交流の輪が広がっている。また、地域の介護相談も受け、出来る限り対応し、介護の拠点として、地域の中で重要な役割を担っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム利用の相談にとどまらず、介護・福祉分野全般の相談に応じている。事業所の持つネットワークを活かして関係窓口につなげている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、利用者家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員等の参加で2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの活動内容や行事報告、地域の情報収集、意見交換を行いサービス向上に努めている。又、地域の方のご協力にて、緊急時の協体制・火災訓練を実施することもできている。	会議は、利用者、家族、地域代表、地域包括支援センター職員、ホーム職員の参加のもと、2ヶ月毎に開催している。自治会長から、防災マップ作成への声掛けがあったり、家族からホームの庭にベンチを置いて欲しいという要望が出されたり、包括支援センターに相談をしたり、活発な意見交換が行なわれ、充実した会議になっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター等へ運営や制度に関する事や、疑問点等をその都度、相談する事で連携を図っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席している。また、行政担当窓口、情報交換や相談に出向き、アドバイスをもらう等している。地域からの相談を社会福祉協議会の「あんしんサービス」に繋げる等、地域と行政との橋渡しにも取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していない。身体拘束については外部研修・内部研修を実施し理解を深めている。言葉による抑制についても、常に意識し支援に努めている。	身体拘束に関する研修に参加し、内部の勉強会でも学ぶ機会を持ち、身体拘束が利用者にもたらす弊害を職員が理解し、利用者が安心して暮らせる、拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃こされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や内部研修を開催し、理解を深め身体的虐待だけでなく、心理的虐待がないよう職員間での意識・徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がある。高齢者の権利擁護に関する研修会への参加や、内部研修を通じて学んでいる。運営推進会議の中でも、地域包括支援センターより情報交換が行われている。	現在、成年後見制度を活用している利用者が出て、後見人の方とのやりとりの中で制度について現場で学ぶ機会がある。また、職員は、制度についての研修を受講し、利用者や家族が、制度を必要とする時、いつでも支援できる体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約書及び重要事項説明書の内容をご利用者・ご家族に不安がないように説明を行っている。又、疑問点不安事項についてはその都度説明を行い納得して頂けるよう努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会等で話ができる場を設け、意見や要望等何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。又、出された意見・要望は、その都度、全職員で話し合い、改善策を講じている。	家族の来訪が多く、運営推進会議にも家族の代表が参加、また、家族会を開催し、家族が抱えている問題や悩み等を話し合う場を作る等、利用者、家族が意向を表出できる機会が多くもたれており、出された意見・要望は、出来るだけホーム運営に反映できるよう努力している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に意見や提案を出来るような関係づくりに努めており、月1回の合同会議、フロアー会議でも意見、提案を聞く機会を設けている。又、年2回人事考課を行い個別に面談している。	会議は、毎月定期開催し、活発な意見が出され、長時間に及ぶ事も度々あるが、熱心な話し合いの中で出された意見は、検討され、出来る事は反映させている。また、年2回、職員と面談し、悩みや要望の聴き取りをしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表も頻繁に現場に来ており、管理者より個々の職員の業務状況や悩みを報告、把握している。又、年2回の人事考課を行い職員が向上心を持って働ける環境を整えている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、性別や年齢、経験の有無等に制限は設けていない。個々の経験を活かし豊かな生活を利用者へ提供できることから、幅広い年齢層を採用している。資格取得についても勉強会を開くなど、奨励している。又、産前産後休暇や育児休暇の取得、学校行事等の参加にも配慮している。	職員のロッカーや休憩室を用意し、特技を活かした役割分担、資格取得に向けての支援等、職員が生き生きと仕事出来る環境作りに取り組んでいる。また、職員の採用については、年齢、性別、資格の制限は無い。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権・プライバシーについての研修会への参加、内部研修を通じて学んでいる。又、毎月、倫理研究所発行の「職場の教養」冊子を全員に配布、日めくりになっていて毎日、出勤前に読んだり、申し送り、ミーティング等に唱和して人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	人権についての研修に参加し、内部で伝達研修を行い、職員全員が理解を深め、利用者の人権を尊重するケアに取り組んでいる。また、理念にある「その人らしさ」を大切にすることが人権教育に繋がることから、毎日理念を唱和し、啓発活動に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修へ参加できる支援体制がある。内部・外部研修共に年間研修計画を立て毎月研修会を行い、ケアの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、ホスピス緩和ケア・ネットワーク福岡の勉強会等への参加や施設見学者、実習生を受け入れることにより、情報交換などの交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族への聞き取り、センター方式アセスメントの活用、ご本人の思いや不安・要望の把握に努めている。生活の中での気づき等を通じて、アプローチし信頼関係を築き、安心して生活出来る支援内容を全職員が共有出来る様にしている。又、利用者ごとに担当職員を決めて積極的に関わりを持つことで、ご本人、家族が相談しやすい環境作りに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時に、ご家族の要望、思いや不安等の聞き取りを行い、関係づくりに努めている。又入居前のケアマネジャー・利用されていたサービスの相談員等と連携し入居時の不安解消に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始時にご家族・ご本人の意向や思いを伺い、必要とされている支援をサービスにつなげられるように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が得意とされる事を、生活の中に役割として持って頂き、ご本人の意欲にもつながらるように支援している。ご入居者にも職員と一緒に、家事を取り組んで頂くことで、お互いに支え合う生活が築けるように努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会話の中でご家族との思い出を伺ったり、お部屋にご家族の写真を飾るなどして、ご家族が近くに感じられるようにしている。ご家族にも面会時や電話等により、ご本人のご様子など細かな報告を行い、ご家族と共にご本人を支える関係作りに努めている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がいつでもご友人や御親戚などと面会出来るようにしている。遠方のご友人からの電話や年賀状・葉書のやり取りも出来るように支援している。今年度は、同窓会時に沢山の教え子が、恩師(ご入居者)への面会に来られた事もあった。	職員は、利用者の住んでいた自宅を訪問したり、近所の商店に買い物に行く等馴染みの場所へ出かける支援をしている。また、元教師の利用者の元に教え子が十数名来訪し、楽しい同窓会が開催され、利用者の喜びは格別なものである。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションを通じて、ご利用者同士の関わり合いが持てる機会を作り、職員が間に入ることで関わり合いが持てるように支援している。ご利用者の心身の状況にも配慮し、席の工夫や一つのテーブルを囲むようなレクリエーションなども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了したご家族に電話をし、体調や様子を伺ったり、ご入居者時の思いで話をしたりして、これまでの関係を大切に、継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意向は、毎日の会話の中や表情などで、くみ取るように努めている。困難な場合は、ご家族に、これまでの生活歴等を伺うことで、ご本人の意向に沿えるように努めている。	職員は利用者寄り添い、毎日の会話、利用者の独り言、表情等から、その思いや意向を把握し、出来るだけ実現できるように努力を重ねている。また、意思の表出が困難な利用者に対しては、アセスメントや家族、ベテラン職員の意見を参考にして、本人本位に検討している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りをしたり、入居前のケアマネジャーから伺い、生活歴や環境等を出来るだけ把握するようにし、全職員で共有するようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の体調や生活リズムを観察し、新しい発見や状態の変化がみられる場合は記録に残し、申し送りやミーティング等で共有できるようにしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の思いや意向を日頃の会話の中からくみ取るように努めている。朝夕の申し送りや毎月のミーティングのなかで職員の意見やアイデア・気付きを話し合い、介護計画に反映させ、経過観察、振り返りをする事でモニタリングに繋げている。	利用者、家族の希望を介護計画に出来るだけ反映させるために、会話する機会を多く持ち、その中から希望を聞き取り、カンファレンスやモニタリングを行ない、3ヶ月毎に介護計画を作成している。また、家族、協力医等と常に連絡を取り合い、利用者の急な状態変化に備えている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報で、排泄・水分・睡眠時間等により毎日の状況や生活のリズムを把握できるようにし、個人記録により細かな情報や職員の気付きを記録している。職員はいつでも確認でき、申し送り等でも情報を共有できるように努めている。介護計画の見直し時にも活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院時の付添いに対応している。通院時の送迎については病院の送迎サービスも利用している。今後もご本人やご家族からの意向があれば柔軟に対応していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に自治会長・民生委員・地域包括支援センターの方など参加して頂いており、地域の行事・情報なども交換できている。また、運営推進会議にて、災害時の危険カ所も確認ができている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間往診可能な医師により緊急時でも対応できるようにしている。ご利用者に心身の状態変化がみられた時は主治医に報告・相談をしている。必要時にはご家族にも往診に立ち会って頂き、主治医からの説明を直接受けて頂いたり、電話等での説明もして頂いている。	3名の協力医による往診と、24時間対応可能な医療連携によって利用者の安心した暮らしを支援している。また、必要時には、主治医が自ら話し合う場を設定し、家族にも説明を行なう等安心して適切な医療が受けられる体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師を配置しており、健康管理に努めている。24時間オンコールで緊急時には対応可能である。介護職員より心身状況の変化や気づきを看護師に報告し、適切な医療に迅速につなげられるように努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際は、ご本人の心身の状況を細かに伝えるように努めている。入院中もお見舞いに伺いご本人の状態の把握に努めたり、退院時にご家族と共にカンファに参加するようにしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、契約時ご本人、ご家族に説明している。日々の関わりの中で、ご本人やご家族の意向をくみ取るように努めている。終末期についてはご家族・ご本人の意向を再度確認し、主治医・看護師・介護職員・管理者を含めたカンファを行うようにしている。カンファの中で、安心して安楽にホームで過ごして頂けるように連携を図っている。	「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、主治医が家族や関係者を集めてカンファレンスを開く等、利用者中心の重度化に向けた支援が出来ている。また、昨年度は2名の看取りを経験し、職員の意識と技術の向上に繋がっている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、研修会を通して訓練している。今後も、訓練を定期的に行い全職員が実践力を身に付けられるよう努めていきたい。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力・立ち会いにて、年2回の避難訓練を行っている。(うち1回は、夜間の想定で実施)運営推進会議を通じて、地域の協力体制づくりをしている。7日程度の備蓄品は用意しているが、今後ライフラインが停止した場合の調理訓練を検討、予定している。	年2回以上の避難訓練を消防署の協力の下実施し、夜間想定訓練や、火元を毎回特定し、非常口、避難経路、避難場所の確認を行い、利用者が安全に避難できる体制を整えている。また、非常災害時に備えての非常食、飲料水も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちをくみ取り、自己決定しやすいように工夫し声掛けしている。研修を通じて個人情報の保護やプライバシーについても学び、理解を深めている。	職員は、利用者のプライドと尊厳を守りながら、優しい声掛け、対応を心がけ、羞恥心に配慮したトイレ誘導、さりげない介助等で、利用者の日々の暮らしが明るく楽しいものになるよう、職員全員で支援している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望に添えるような声掛けを心掛け、自己決定しやすいよう努めている。また、ご本人の表情や会話の中でくみ取るようにしている。食事やおやつもいくつかの選択肢の中から、選んで頂く機会も作っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズム、夜間の睡眠状況、排泄のタイミング・体調など、ペースや希望に合わせて支援している。日中も体調をみながら休憩をとって頂いたり、食事の時間変更にも対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの色や洋服の着かた(寒い日はベストを着る・スカーフを巻く等)を把握し、ご本人らしく過ごせるように支援している。髪の毛の色や長さも、相談しながらカット出来るように支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、調理や盛り付け、片付けなどご入居者と共に行っている。職員もご入居者と一緒と同じテーブルで食べ、音楽を聴きながら、楽しい雰囲気ですることできるようにしている。一人一人の好みも把握し、メニューにも取り入れている。	利用者と職員は、調理の下ごしらえや配膳、下膳等、利用者の残存能力を生かす支援に取り組んでいる。また、利用者と職員(時々家族)は同じテーブルに座り、楽しい会話の中で一緒に食事をしている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日を通じて確保できるように24時間のチェックシートで管理し、毎食時、食事量も確認している。飲み込みや咀嚼に合わせて食事形態も工夫したり、スプーンの大きさやお皿の大きさ等にも配慮している。また、体調によっては時間帯の変更にも応じている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをしている。ご入居者の状態によって、スポンジやワンタフト歯ブラシを使用している。歯間ブラシは職員が介助している。口腔内の状態に応じて、歯科医にも相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の水分・排泄チェックシートで、排泄のパターンを把握し、ご本人のサインにも留意した上で、トイレにさりげなく声掛けしている。トイレでの排泄を大切にしながら、排泄量や時間帯などご本人の状態に合わせて、パットも使い分けしている。	ほとんどの利用者が布パンツにパット使用で、パットの大きさも使い分け等細やかな対応で、トイレでの排泄を大切に排泄の自立に向けて取り組んでいる。また、排泄時、タオルをかける等羞恥心に配慮した支援で落ち着いて気持ちよくトイレで排泄できるよう心がけている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜などの繊維質の多い食品や牛乳の提供、水分量の確保、運動の取り組みにより、便秘解消に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、ご本人の体調や希望に出来る限りそうようにしている。入浴は午前・午後共に可能で、着替え等もご本人と一緒に準備するようにしている。	入浴は、週2、3回であるが、利用者の希望を優先し、いつでも入れる体制がある。入浴を拒否する利用者に対しては、無理強いせず、時間を置いて声掛けしたり、清拭、足浴で対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動量を高め、生活のリズムが整うように努めている。室内の温度に配慮し、寝付けないご入居者には話を伺い、安心して眠れる様に声掛けしている。日中も体調をみながら、休憩がとれる様に支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状は個別のファイルに保管し、職員が把握できるようにしている。薬の変更があった時は、申し送り伝え、状態の変化がないか、記録を取り変化がある場合、医師や看護師に相談している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を把握し、得意とされる事を役割として持つて頂くことで、生活の中に張り合いが持てるように支援している。家事をお願いした時は、感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、季節ごとの行事もご利用者に楽しんでもらえるように企画している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら、買物や散歩に出掛けている。体調を見て、ご家族協力のもと、一時帰宅の機会も設ける事ができた。毎日、玄関まで外気浴に行かれ、天候をみられる方もある。	利用者の重度化に伴い、全員での外出は難しくなってきたが、個別で病院受診の帰りに馴染みの商店で買い物したり、外食等を行なっている。また、お花見や気分転換のドライブ等、利用者が生き生きと暮らすための取り組みをしている。天気の良い日は、玄関前に椅子を並べて、歌を歌ったりおやつを食べたり、外気に触れる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人様がお金を持っていないと不安と言われ、ご家族の了承のもと、財布を持っておられる方もいる。買い物時はご本人に支払って頂くようにしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人からの希望時にご家族に電話を掛けたり、手紙のやりとりがある方には、ポストへ投函をする等の支援をしている。年末はご家族あてに年賀状を書いて頂く機会も作り、内容を一緒に考えたり、住所の代筆等も行った。</p>		
54	2 2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関ホールには花を飾り、リビングにはダイニングテーブル・ソファ など、くつろげる空間を作っている。リビングより、ウッドデッキが庭に続き、庭木により季節感も味わえるようになっている。24時間換気システムも完備している。</p>	<p>住宅地の中の違和感のない2階建ての造りで、見晴らしの良い庭にはベンチが置かれ、柿や柚子、梅の木が植えられ、実を収穫しての梅酒作り等、利用者の楽しみとなっている。また、24時間換気システムを取り入れ、換気、音、光にも配慮した居心地の良い共用空間である。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには、ソファがありくつろげるようになっている。新緑の時期には窓辺に向け、喫茶を楽しんで頂いたりした。レクリエーションによっては、テーブルの配置を変えたり、キッチンにも椅子を置き、職員とのコミュニケーションを図って頂いている。</p>		
56	2 3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内はご家族やご本人と相談しながら、ご家族の写真・自宅で使っていた家具などを持ち込んで頂き、自宅で生活されていたころの雰囲気を感じられるようにしている。</p>	<p>居室は広く、利用者の馴染みのタンスや机、仏壇ぬいぐるみ等、家族と相談して持ち込んでもらい、利用者が穏やかに暮らせるよう支援している。また、管理者は、なるべく利用者と家族の繋がりを大切にしたいと考え、お孫さんや家族の写真を必ず飾るようにしている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室前にはご本人の名前のはいった表札を、「トイレ」についても大きく表示している。また、手すりが見にくいご入居者の為に浴室やトイレ内等に赤のテープで目印を付けている。</p>		